

取組個票①5年間の取組全体概要

①取組名	取組36	(東北方面の経済復興支援も含めた)横浜港の国際競争力の強化
②対応する目標・課題	横浜港のハブポート化による国際競争力の強化、東北方面の経済復興支援	
③対応する評価指標・目標値	■評価指標:港のコンテナ貨物取扱量	■目標値:約400万TEU(27年頃)
④取組内容	<p>港湾施設の機能強化や広域からの貨物集荷、効率的な港湾経営の推進など横浜港の国際競争力の強化を図り、物流面から背後圏の経済や市民生活の活性化など「経済価値」の創造を推進する。また、東日本大震災では、製造業の生産拠点が集積する東北地方の企業の被災や、太平洋側港湾を利用した内航航路、道路・鉄道等、物流網の寸断等により、被災地経済はもちろん、(被災地からの部品調達等)我が国全体のサプライチェーンに大きな影響を与えている。このような事態を防ぎ、被災地経済が新たな成長へと転じていくには、一刻も早く低コストで安定した物流網の機能を確保するために、内航航路等の国内輸送網への支援をする必要があり、被災地と世界各国を結ぶ国際物流拠点である京浜港の国際競争力を強化することで、復興の促進を図る。</p>	
⑤エリア	横浜港の港湾区域及び臨港地区	
⑥主体	横浜市	
⑦活用した国等の制度	<ul style="list-style-type: none"> 横浜港改修(国際戦略)事業(平成21年度～) 港湾施設の整備に関する国直轄事業又は補助(港湾法) 	
⑧地域の関与	国際コンテナ戦略港湾の港湾管理者として、国際競争力強化の推進に取り組む。	
⑨スケジュール		
23年度	(財)横浜港埠頭公社民営化、コンテナ貨物集荷促進事業、震災対応 南本牧ふ頭MC3整備・本牧ふ頭再整備(D4)・南本牧ふ頭連絡臨港道路整備	
24年度	(財)横浜港埠頭公社民営化、コンテナ貨物集荷促進事業、震災対応 南本牧ふ頭MC3整備・本牧ふ頭再整備(D4)・南本牧ふ頭連絡臨港道路整備・国道357号本牧出口ランプ整備	
25年度	コンテナ貨物集荷促進事業・南本牧ふ頭MC3整備・本牧ふ頭再整備(D4)・南本牧ふ頭連絡臨港道路整備・南本牧ふ頭MC4整備・国道357号本牧出口ランプ整備ほか	
26年度	コンテナ貨物集荷促進事業・南本牧ふ頭MC3整備・本牧ふ頭再整備(D4)・南本牧ふ頭連絡臨港道路整備・南本牧ふ頭MC4整備・国道357号本牧出口ランプ整備ほか	
27年度	コンテナ貨物集荷促進事業・南本牧ふ頭MC4整備・本牧ふ頭再整備・国道357号本牧出口ランプ整備・南本牧ふ頭連絡臨港道路整備ほか	
28年度	コンテナ貨物集荷促進事業・南本牧ふ頭MC4整備・本牧ふ頭再整備・南本牧ふ頭連絡臨港道路整備ほか	
29年度以降	-	
⑩他の取組との連携		
⑪自立・自律の方針・目標	委託化の推進など効率的な事業手法の選択と市民サービスの向上を行い、戦略的な港湾経営を推進する。	